

部活動などの活躍

《ソフトテニス部》

第5回ARAKAWA杯 第5位

〇〇〇〇さん(1-2)、〇〇〇〇さん(1-4)



《バレーボール部》

荒川区中学校バレーボール一年生大会 第3位



《吹奏楽部》

第51回東京都中学校アンサンブルコンテスト

A部門 打楽器四重奏 銀賞

祈りの光 一つの思い I (山澤洋之 作曲)

B部門 管楽七重奏 銅賞

三日月のシャンソン(福田洋介 作曲)



- ・給食がおいしかったです。(3年、豆腐屋小町)
- ・学校がやっとはじまって、みんなに会えた◎(3年、そんちゃん)
- ・数学ができるようになって感無量！(3年、なまり)
- ・料理が上達し、さまざまな料理が作れるようになった。(3年、元生徒会長)
- ・誕生日に、色々プレゼントもらったり、祝ってもらったので良かった。さようなら13才、これから頑張ろう14才！(2年、ゆう)
- ・部活でタイムを縮めた！(2年、デロジ〜ニ)
- ・霜月祭の練習でセリフを暗記出来た!!(2年、荒川の伝説・すわじいさん)
- ・ヤンのバレーが見れてうれしかった。(宮尻先生)

皆さんからの投稿の一部を紹介합니다。これからもしどしどし投稿してください。



南千住マイスターのコーナー

荷風の作品はちょっと難しい面もあると思います。少し大人にならたら読んでみたいらうでしょう。

その後晩年にかけて荷風は吉原の遊女などの生き方に焦点を合わせた作品も多く手がけます。それが浄閑寺とのつながりを生みます。荷風は何度も浄閑寺に足を運びます。1959年4月30日、79歳のとき一人暮らしで荷風は浄閑寺に葬られたと記されています。司ヶ谷霊園に葬られたが、荷風は浄閑寺に葬られたと記されています。その遺志を継ぎ、浄閑寺の住職や仲間・弟子たちが、1963年(昭和38年)11月18日、遊女らの「新吉原総霊塔」と向かい合せて、詩碑と筆塚が建立されました。

南千住の歴史上の人物 その6

『永井荷風』と浄閑寺

三ノ輪橋近くに「浄閑寺」という寺があります。この寺は、別名「投げ込み寺」とも呼ばれ、昔、吉原の遊女が病氣などで死んでしまったとき、身寄りがなく、この寺に投げ込まれ葬られたという少し悲しい話があります。実際には、安政の大地震の際に亡くなった遊女が多数葬られたようです。

この寺に関わりが深い人物の一人として「永井荷風」という小説家があります。荷風は明治から大正、昭和初期にかけての小説家です。1879年明治12年12月3日、東京小石川で生まれます。本名は永井壯吉といひます。父は内務省衛生局に勤務していたエリート家庭で、幼稚園、小学校初等科・高等科、そして高等師範学校附属尋常中学校(現・筑波大学附属中学校)2年に編入学と順調に進んでいました。この頃母の影響もあり、歌舞伎や邦楽に親しみ、さらには漢学・日本画・書も学びました。

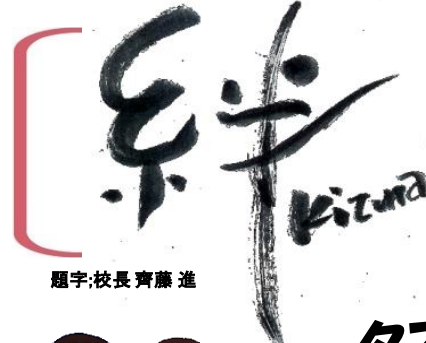
1894年、病氣になり中学を休学します。この長期休養中に文学に目覚めたようです。中学卒業後は裕福な家庭らしく、上海に旅行したりアメリカやフランスに渡り大手銀行に勤めたりしました。しかしこれらの国々で見たことや経験したことをもとに文学活動に没頭するようになります。29歳から30歳にかけて『あめりか物語』『やんす物語』などを発表。また、『夏目漱石からの依頼』により朝日新聞に『冷笑』が連載された他、『新編朝者日記』『深川の唄』などの傑作を発表していきま

す。かの有名な夏目漱石や森鴎外とも親交がありました。1910年には、森鴎外らの推薦で慶應義塾大学教授となりました。また、谷崎潤一郎を世に送り出したのも荷風です。

その後晩年にかけて荷風は吉原の遊女などの生き方に焦点を合わせた作品も多く手がけます。それが浄閑寺とのつながりを生みます。荷風は何度も浄閑寺に足を運びます。1959年4月30日、79歳のとき一人暮らしで荷風は浄閑寺に葬られたと記されています。その遺志を継ぎ、浄閑寺の住職や仲間・弟子たちが、1963年(昭和38年)11月18日、遊女らの「新吉原総霊塔」と向かい合せて、詩碑と筆塚が建立されました。



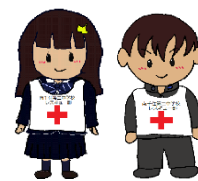
浄閑寺 荷風の詩碑(右)と筆塚(左)



題字:校長 齊藤 進



学校だより
平成30年1月
第81号
荒川区立南千住第二中学校



ナンちゃん・ニーくん

タスキをつなぎゴールを目指そう

～一人一人がチーム南二の駅伝選手になって～

校長 齊藤 進

新年を迎え生徒は元気に学校生活をスタートすることができました。今年度そして今年もどうぞよろしくお祈りします。

さて、1月2日、3日に毎年恒例の第94回東京箱根間往復大学駅伝競走が行われました。今年も感動のドラマが繰り広げられましたが青山学院大学が総合優勝で4連覇を達成しました。知り合いの大学関係者からのお誘いでその日の夕方から青学会館で行われた祝勝会(陸上部報告会)に参加する機会に恵まれました。監督・選手が入場すると会場の参加者が一体となってボルテージは最高潮となりました。監督・選手のあいさつからは早くもV5への強い意思が伝わってきました。同時に、大学側からは参加校全ての選手に対する感謝の言葉があり、キリスト教の大学らしく会場の人たちすべてが祈りをささげました。



原監督



エース 下田選手

祝勝会を通して年始から私は多くのエネルギーやパワーをいただきました。この力を受検に向かう3年生に送ります。3年生は目標に向かう駅伝選手なのかも知れません。今、不安な気持ちを抱えながら懸命に目標に向かってがんばっています。そんな3年生には克己(こつき)「おのれに打ち勝つ」という心をもってほしいと思います。駅伝選手は仲間にタスキをつなぐために、各区間を一人の力で走り抜けてはなりません。誰の力も借りることなく孤独と闘い、弱気な自分と闘いながら走ります。心の中で3年生に応援の旗を振り続けたいと思います。



チーム南二

さらにいただいたパワーをすべての1・2年生にも送ります。一人一人の生徒がチーム南二の駅伝選手となって学級目標や学年目標に向かうとともに3年生から2年生、1年生へとタスキをつなぎ、すばらしい南二中の伝統を引き継ぎながら教育目標の「たくましい人」というゴール目指してテープを切ってほしいと思います。乱れた学校生活を送ったり、勝手な行いをして横道にはずれてはタスキをつなぐことはできません。繰り上げスタートによりタスキを渡すことができず目標が達成できないことがあるかも知れませんが、しかし一生懸命に走ることが感動を呼び、心のタスキを渡すことができます。次の走者はその心意気を肌で感じて走る勇気を得ることができると信じます。

残り少ない3学期の締めくくりを有終の美で飾るために、そして4月から新入生を迎える新しい年度をすばらしくスタートさせるために、しっかりとタスキをつないでください。

すべての生徒のさらなる成長を期待します。

タコあげ大会ボランティア



会場の準備から、タコ作りやタコあげの手伝い、最後の後片付けまで皆で協力して行いました。

タコあげ大会ボランティア参加者

1月7日(日)に正月の恒例行事として地域の皆さんに親しまれている、南千住地区委員会「新春タコあげ大会」が行われました。今年のタコあげ大会には、小学生とその保護者の皆さん合わせて300名以上が参加。タコ作りを荒川総合スポーツセンターで、隣接した野球場でタコあげを行い、正月ならではの遊びに興じる親子で会場は賑わいました。

南千住二中レスキュー部は、毎年ボランティアとして子どもたちのタコ作りの手伝いを行っており、今年も1・2年生の10人が参加。1ヶ月前からタコ作りの練習会などに励んだ成果もあって、当日は、タコ作りの補助やタコあげの手伝い、会場設営や後片付けなどで大活躍しました。ボランティア参加者の皆さん、お疲れさまでした。



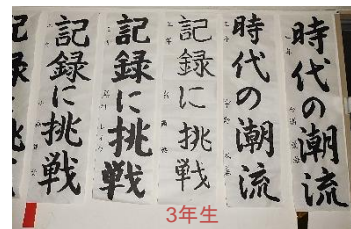
参加者の皆さんで記念撮影

校内書き初め展・作品展示会

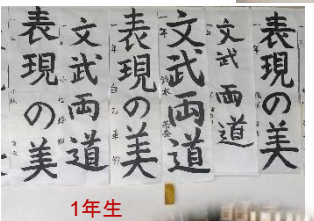
1月10日(水)から南千住二中では、「校内書き初め展」および「作品展示会」を行っています。書き初めは新年に行う筆始めの行事で、毎年冬休みの宿題として全校生徒が取り組んでいます。今年も一文字一文字に思いを込めた力作が揃い、各クラスの有志たちによって、学年のフロアや教室の壁面などに展示されました。力強い書道作品が一堂に集まった様子は迫力にあふれています。

「作品展示会」では、1年生の「清里移動教室新聞」や2年生が美術科の授業で、つぶれた空き缶を紙粘土で再現した「空き缶アート」、3年生が美術科の授業で、好きな国をイメージして描いた「観光ポスター」などが1階のホールを利用して展示されています。書き初め展・作品展示会は1月26日(金)までですが、1階ホールでは今後も展示を行います。公開授業日などの機会に、保護者、地域の皆さまもぜひご参観ください。

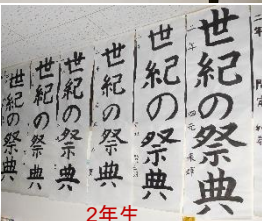
なお、これらの中から特に優れた作品は、1月26日(金)~29日(月)の4日間に町屋文化センターで行われる「荒川区立中学校連合作品展示会」に出品されます。区内全公立中学校の優秀作品が集まりますので、こちらにもぜひ足を運んでください。



3年生



1年生



2年生



左下: 清里移動教室新聞
中央: 空き缶アート
右下: 観光ポスター

2年生 親子レク大会

1月13日(土)の授業公開日の2、3校時に、「2年生の親子レクレーション大会」が開催されました。生徒は各クラスを5チームに、保護者の皆さんも6、7名の5チームに分け、4人制のビーチバレーが行われました。この日参加いただいた保護者の皆さんは30名以上に上り、朝から練習や作戦会議を行うなど熱気に溢れていました。試合は5リーグ制で、全チームの総当たり戦で勝ち数を競いました。試合の組み合わせでは、コート

を挟んで親子対決の場面も見られ、どの試合でも白熱したプレーが繰り広げられました。最後に結果発表が行われ、Aリーグでは3Aチーム、Bリーグでは2Bチーム、Cリーグでは3Cチーム、Dリーグでは2Dチーム、Eリーグでは接戦の末、1E、2E、4Eの3チームが同率で勝利を飾りました。親子で爽やかな汗を流し、コミュニケーションを深めた1日となりました。

開催にあたっては、末永先生と体育係が中心となり、1ヶ月前から準備や試合の運営、審判、片付けなどを協力して行い、今大会を支えてくれました。皆さん、ありがとうございました。

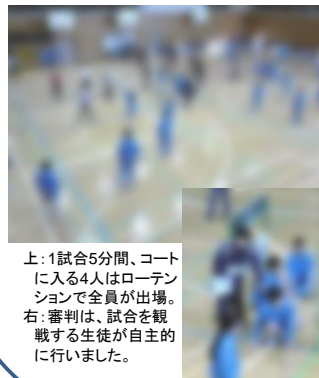
保護者チームの連係プレー炸裂!!

トス!

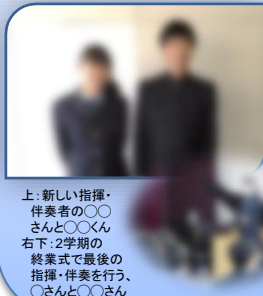
アタック!!

決まった~! やったね~!!

校歌の指揮・伴奏者が2年生にバトンタッチされました。



上: 1試合5分間、コートに入る4人はローテーションで全員が出場。
右: 審判は、試合を観戦する生徒が自主的に行いました。



上: 新しい指揮・伴奏者の〇〇さんと〇〇くん
右下: 2学期の終業式で最後の指揮・伴奏を行う、〇〇さんと〇〇さん

全校朝礼や入学式、卒業式などの式典で行われる校歌斉唱の指揮者と伴奏者が3年生の〇〇〇〇さんと〇〇〇〇さんから、2年生の指揮は〇〇〇〇さん(2-3)、伴奏は〇〇〇〇くん(2-1)に引き継がれました。〇〇さん、〇〇くん1年間ありがとうございました。〇〇さん、〇〇くん、これからよろしくお祈りします。

地域の皆さまからの年賀状

昨年レスキュー部が年賀状をお送りした近隣の皆さまや一人暮らしの高齢者の方々から南千住二中にたくさんの年賀状が届きました。干支のイヌにちなんだ筆書きの絵が描かれたものやレスキュー部員に宛てたメッセージが書かれたものなど、どれも趣向を凝らし、心遣いにあふれています。

「レスキュー部の方々にもいつもお世話になっています。今年もどうぞよろしく!」、「学校だよりと共に訪ねてくれてありがとう。若い人の力を心強く思います」など感謝や励ましの言葉も添えられており、絆ネットワークの活動が近隣の皆さまとの絆を育み、万一のときの心の支えとなっていることが伺え、これからの活動の大きな励みとなりました。皆さまからの年賀状は、レスキュー部や職員一同で拝読させていただきました。心温まるメッセージの数々、本当にありがとうございました。

いただいた年賀状の一部を紹介します。

